(14) 春日神社（かすがじんじゃ）

住所：519-1424 三重県伊賀市川東６１３
TEL ：0595-45-4398
参拝日：2013年5月1日
名阪国道「御代IC」から車で約3分

主祭神	武甕槌命（第一神殿）	鹿島大神	神護景雲元年（76年）鎮座
祭　神	経都主命（第二神殿）	香取大神	同上
	天兒屋根命（第三神殿）	春日大神	同上
	姫大神（第四神殿）	天照大神	同上
	天押雲命（第五神殿）	若宮	天歴４年(950年)鎮座

鳥居と拝殿

本殿

弊額

春日社の銘が刻まれた二つの石灯籠の間を抜けると明神造りの石の鳥居があり、広い境内の真ん中に土で盛った土俵が設置してある。さらに進むと数基の石灯籠があり、その先の石橋を渡ると“県指定有形文化財に指定されている拝殿がある。説明文によると”木葉遺伝は桁行7m30cm、梁間16m60cmの木造単層入母屋造、前面唐破風付割拝殿である。松材を使用し、簡素な造りである。屋根は、本来檜皮葺であったが、銅板葺に改めている。柱は建築当時のものも残っていると言われ、配列や面の取り方などから鎌倉時代の様式がうかがえる。斗形は鎌倉末から室町様式のものである。社伝によると、飛騨の工匠甚五郎の作と伝えられる“とある。天正伊賀乱では春日大社の神職や興福寺の僧が滝川一益に訴え、それを聞き入れられて難を免れたそうである。拝殿の裏には本殿に続く石段の麓の両脇には阿吽の石造りの狛犬と神明造りの木の鳥居がある。石段の上には鎮守の森に囲まれた春日造りの本殿が五宇あり、それぞれの殿宇に主祭人を始め４柱の祭神が祀られている。拝殿には、延享4年(1747)から明治27年にかけての大小12枚の絵馬（春日神社雨乞願解大絵馬 附 相撲板番付）が挙げられている。

境内神社として壬生神社があり、市杵島比責神、大山祇命、武内宿禰、火能迦具土命、彌都波能賣命、應神天皇、建速須佐之男命、宇加能御魂命、大物主命、五男三女命が祀られている。

絵　馬

境内には20mを超すスギがあり、社叢にはツブラジイやスダジイの高木がありその下にはサカキ、ヒサカキ、アセビなどが繁茂し、林床にはシダ類やシュラン、スズカカンアオイなどが生育している。その他、ヤブツバキ、アラカシ、フジ、センダン、ヌルデ、アオキ、クスノキ、イロハモミジ、バクチノキなどもみられた。本殿裏山の頂上には「春日城址」のプレートもあった。

由　緒：

當神社は人皇四十八代稱德天皇の御代神護景雲三年奈良春日社より勧請せり。武甕槌命は神護景雲元年6月21日常習州鹿島を出達、和州三笠山に宮居を定められる御途中、伊賀地に入られ、壬生野の庄現在の春日神社社地に御駐泊されたるを以て、その後三年を経て勧請す。御駐泊の御出立の時に残されたる神歌に

「奈良河内吉田の杜に移るとも壬生野の里の在明けの月」

此勧請御鎮座には、春日大社宮司時風来たりて祭主となり崇厳なる祭典を奉　、氏子は長屋座、斎宮座、永座、富永座、御供座、美濃座、台所座の七座に分って奉仕し、9月17日に斎行せり。明治41年、西之澤村社登牟神社を合祀、社殿は現在の境内社壬生神社として鎮座す。拝殿は単層入母屋造割拝殿にして鎌倉時代の遺構なり。（神社石版）

例祭日：4月16日　神幸式斎行

特殊神事

流鏑馬神事：宮司馬上より九本の矢を放ち氏子の安全祈念す。

子供相撲神事：御旅所にて祭座七當家の幼児當歳より七歳までの男子を以て奉納す。

獅子神楽：長徳年間より現在に至る。

宝物、文化財：

絵馬12面（延享から明治期まで、町指定文化財）、古文書（立願状四点、湯茶文書一点、借米文書六点、宮座文書一点、阿拝郡西之澤村新田内検帳三点　市指定無形民俗文化財）、棟札（ 宝永七年〈1710〉）、剣　二口、鏡　一面、薙刀　一振。